

広報九州



平成21年8月10日

(2009年)

No 1651

九州森林管理局

〒860-0081

熊本市京町本丁2-7

IP電話 050-3160-6600(代表)

<http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/>

第2回 森林倶楽部 21人奄美大島を訪ねる 希少野生動植物に感動

7月11日～13日までの日程で第2回九州森林倶楽部「希少野生動植物の宝庫 奄美大島2泊3日の旅」を行いました。

奄美大島は、アマミノクロウサギ、オオトラツグミなど絶滅が危惧されている動植物が多いことや亜熱帯性と温暖帯性の樹

種が混在する世界的にも重要性が高い地域であることなどから森林生態系保護地域の設定が検討されています。今回の森林倶楽部には遠くは東京都からの参加者を含む21人が奄美空港に集合しスタートしました。

一日目は、奄美大島の北端周



奄美大島の自然を満喫の参加者の皆さん

辺部に位置する「あやまる岬」へ行きましました。美しい珊瑚礁に取り囲まれた海の眺めに参加者の皆さんは歓喜の声を上げられていました。

二日目は、鹿児島森林管理署名瀬森林事務所の大柿首席森林官と大柿森林官の前任者でもあり奄美の森林を始め奄美のことに精通している臨時職員の藤本さんの案内により、今回のメインである金作原国有林と湯湾岳国有林を訪ねました。金作原国有林は市街地から比較的近く、気軽に訪れることができ、自然探勝を楽しみながら植生、野鳥などの観察や森林の働きなどを学ぶことができます。参加者はここで見られる巨大なヒカゲヘゴや根が地表にむき出たオキナワウラジロカシにどよめきの声を上げながらも夢中でカメラのシャッターを押しましました。その後、一行は環境省の奄美野生生物保護センターへ。奄美の希少な野生生物の映像や展示物などを見学した参加者の皆さんは、改めて奄美大島が希少な動植物が生息する野生生物の宝庫であることを実感した様子でした。午後からは湯湾岳国有林を訪ねました。湯湾岳は奄美群島最高峰(694.4m)の山で、特徴のある固有種が多く生息することから、「東洋のガラパゴス」とも呼ばれています。参加者は鬱蒼とした原生林の中へ入り込んでいき、藤本さんのシマオオタニワタリ、アマミアオネカスラ、アマミヒサカキといった亜熱帯性植物の説明に熱心に耳を傾けながら、約2時間のコースを足下に注意



世界最大のさやを持つモタマ

しながら自然観察を行いました。その後マングローフの森、1メートル前後の世界一巨大なさやをつけるマメ科のつる性常緑木のモタマ群生地を見学し、盛りだくさんの二日目を終えました。三日目は、バショウ群生地、ソテツ群生地を続けて見学。最後に立ち寄った奄美パークでは奄美群島それぞれの島の歴史や文化についての展示、奄美の自然を描き続けた画家、田中一村の美術館などを見学しました。参加者からは、「前回参加した八重山諸島の旅がとてもおもしろかったので参加した。今回も亜熱帯の植物には驚かされた。自然とのふれあいが楽しかった。めずらしい植物が見られて満足などの感想とともに、来年も島でのイベントを計画して下さい」との要望が多く寄せられ、三日間の思い出を胸にそれぞれの帰路へとつきました。

(担当＝指導普及課)

日本林業の再生に向けて 低コスト造林への取組

趣旨

低迷する林業の再生に向けて、植え付けから伐採までのトータルコストの削減が大きな課題となっています。これに対応して、林業用コンテナ苗の活用などにより、造林コストの低減を図るための取り組みを推進します。

コンテナ苗に期待する効果

①季節を問わず植え付けることができ、伐採直後の新植が可能となることから、生産と新植

を同時に発注し事業コストの低減（地替えの省力化等）

②植え付け直後から生長が期待できることから、初回の下刈の省略

③一畝植えなどの簡易な植栽方法により植栽能率の向上

この他、苗木生産過程においては、ハウス育苗が可能となり小面積での大量苗木生産や苗木床替えの不要といった省力化も期待できます。

苗木生産過程におけるコンテナ苗の課題

①苗木の輸送において苗の形状が壊れないこと
②コンテナから苗を容易に外せること

がコンテナ苗を活用するにあたっての課題となりますが、いずれの課題も培地の工夫が重要なポイントとなります。

取り組みの概要

コンテナ苗事業については、苗木生産者の理解を得て苗木生産の取り組みが普及への第一の課題でした。

コンテナ苗については、改良すべき課題がありますが、今年度はこれらの課題を改善し、より実用性の高いコンテナ苗とするため、宮崎県緑化樹苗農業

（協）と意見交換を行うなど積極的な取り組みを進めています。



スギ間伐材チップ

担うこととなり、さらに間伐材の需要拡大にも資するものと考えています。

（担当＝森林整備課）

湖畔祭りで森林教室

【大分西部森林管理署】「森と湖に親しむ旬間」の行事の一環として「耶馬溪谷湖畔祭り」が行われ、当署は杉板仕様の虫かご作りを指導しました。今年度はメイン会場とは別のアクアパークで行われたため、午前中は訪れる子供の出足が少ないようでしたが、午後からは徐々に増え、終了時間間際には大盛況となりました。子供たちは完成した虫かごを手に笑顔でお礼を言って持ち帰っていました。



育成中のコンテナ苗



島田 泰助
年齢 55歳
出身地 神奈川県

林野庁長官が交替

7月14日付けで、内藤邦男前長官が退任し、島田泰助新長官が後任に就任しました。

◆ 新長官の略歴は次のとおりです。

昭和51年4月 農林省入省（林学）
平成9年4月 林野庁業務部長
務第一課販売推進室長

平成11年3月	林野庁国有林野部管理課監査官
平成11年7月	林野庁国有林野部業務課長
平成13年4月	林野庁国有林野部経営企画課長
平成16年7月	九州森林管理局長
平成18年1月	林野庁森林整備部長
平成18年8月	林野庁林政部長
平成20年7月	林野庁次長
平成21年7月	林野庁長官



虫かご作りを指導する職員と児童ら＝大分西部

第1回

屋久島世界遺産地域

科学委員会を開催

6月28日、鹿児島県屋久島町において、第1回屋久島世界遺産地域科学委員会を開きました。屋久島は平成5年に世界遺産に登録され、各管理機関はその保護・管理に努めているところですが、今般、14人の学識経験者などからなる科学委員会が設置され、科学的なデータに基づいた順応的管理に必要な助言を得る体制が整えられました。

委員会では、矢原徹一委員長（九州大学大学院理学研究院教授）を委員長に選出。事務局から屋久島世界遺産地域の概要と



議論する科学委員会の皆さん

これまでの経緯についての説明の後、世界遺産としての屋久島の価値について議論が行われました。

委員からは、「登山客の踏圧やヤクシカの菜食圧により屋久島の植生が変化している。屋久島の価値に科学者だけでなく島民など広く意見を聞くべき。屋久島の植生の顕著な垂直分布を

確保する上で西部地域のみでは不十分である」などといった発言がありました。

次回委員会では、各管理機関などが行っている調査研究・モニタリングを整理するほか、屋久島世界遺産地域科学委員会として取り組む課題とその基本方針について議論することとして

海岸林の清掃に120人

【宮崎北部森林管理署】「日向海岸風景林」において、海岸

（担当：計画課）

林のクリーン活動を行いました。当日は、炎天下の中、近隣の遠見区の住民をはじめ、市や県の職員、海岸林周辺施設関係者、ウォーキングクラブ会員など60人余りが参加。7つのグループに分かれて、2キに及ぶ遊歩道周辺のゴミ拾いや草払い作業を行い、軽トラック3台分のゴミが集まりました。また、お倉ヶ浜海岸林でも近隣の財光寺区民をはじめ、日向市ふるさとの自然を守る会やお倉ヶ浜松の緑を守る会などボランティア約60人がクリーン活動を行いました。



クリーン活動を行う参加者＝宮崎北部

今年は昨年より多くの方がクリーン活動に参加し、地域の方々の環境問題や環境整備に対する意識の高さが伺えました

霊峰「紫尾山」のブナ林保護

日本の森林を代表する樹木の一つ、ブナは大隅半島の高隈山と薩摩半島の紫尾山が南限として知られています。県内の各地でブナの化石が見られ、かつては、低温期を経たことをうかがわせ、紫尾山では次第に高地に後退していき山頂の寒冷がブナ林を守り続けてきたと言われています。



紫尾山（標高1067㍎）は、山頂まで道路が



前さつま町森林林業活性化促進議員連盟会長

別府 静春 さん

が年間を通して訪れており、また、地域では霊山として崇められている山でもあります。近年、樹齢200年を越す巨木の倒木が目立つよう

になってきており、倒木の周辺に幼木が見当たらないことから後継樹が育っていないのではと危惧されています。

このようなことからさつま町・

さつま町森林林業活性化促進議員連盟などからブナ保護のための基礎調査として毎木調査（径級毎）・結実調査・稚樹の保護などにつき要望したところ、北薩森林管理署では、九州森林管理局や森林総合研究所と現地調査をされた上で、私たちの要望にそった調査や保護活動に取り組むことを決めていただき、地域の方々と一緒になった取り組みを行い、貴重な植生の山を「国民の森林」として取り組んでいただいて、大変感謝しているところです。

今後この取り組みが、実りある結果となりますよう心よりお祈りいたします。



熊本森林管理署
矢部内大臣森林事務所
首席森林官 山本純也

九州のほぼ中央、山都町にある天主山(てんしゅざん、標高1494m)は、九州本土最高峰の国見岳(標高1739m)を筆頭に1600m級の頂が連なる九州脊梁中央山地国定公園の西南部に位置し、九州百名山

天主山1494m 豊かな動植物・四季を通じ多彩な表情

に選定されています。

石灰岩の地肌を露わにした頂上付近は一見、無骨に見えますが、一帯は遠望からは想像できない多くの種類の動植物が生存しています。春はヒトリシスカや5年に一度開花するというアズマイチゲ、初夏はコバノミツバツツジ、ヤマジャクヤク、秋

にはトリカブトなど・豊かな植物が季節毎に多彩な表情を見せてくれます。それぞれの時期にはそれを目当ての登山者からの問い合わせが群を抜いて多いのもこの天主山です。

主な天主山への登山ルートは3つあります。最も一般的で気軽に行けるのは宮崎県境の椎矢峠から尾根沿い

天主山からの遠望



を行く約2時間のコースです。

次に、山都町菅地区から林道大藪線(国有林林道)を經由して行く約3時間のコースがあります。そしてもう一つは、山都町の内大臣橋を渡り内大臣林道を約8キロ行った内大臣製品事業所跡(昭和55年の廃止まで60年余りに渡り木材を供給)から2時間のコースです。このコースの半分ほどはブナ、モミ、ツガ、ケヤキなどの巨木が鬱蒼と立ち並ぶ「内大臣植物群落保護林」となっています。



真っ赤に彩られひっそりと佇む社



林床を覆うヤマジャクヤクの花

事業所跡から天主山に向け40分程行くと鳥居があります。この鳥居を潜ると森の巨人100選に指定された樹齢500年、幹回り5mの大スギがご神木としてそびえています。傍らの小高い峰には屋根を真っ赤に色塗られヒソリと佇む社があります。平家の落人が「小松内大臣重盛公」を祀ったとされる「小松神社」です。これがこの地が内大臣と呼ばれる由縁とされています。この神社は、縁結びの神として崇拝され4月4日の祭日には多数の男女が参拝し出会いを求めたとのこと。

コースによっては急峻で足に覚えが必要です。選定にはご注意を。また、土砂崩れなどで林道や歩道が通行できない場合がありますのでご注意ください。

海と山の関わり学ぶ

【大隅森林管理署】鹿児島県の照葉樹の森管理事務所の主催で「夏休み体験学習」が開かれ錦江町、南大隅町の小・中学生26人が参加しました。はじめに児童らは山川海上保安署の巡視船「せんだい」に乗船し船内を見学。また、錦江湾に浮かぶ船上から大隅の山々を遠望しました。下船した児童らは山川港の会から山川町の歴史について説明を受けた後、当署職員から、山の役割などについて紙芝居や風に乗って運ばれる種子の模型を用い説明を受けました。児童らは熱心に耳を傾け、海と山のかかりについて学ぶことができました。夏休みによい体験が出来たと喜んでいました。



体験学習に参加の皆さん=大隅

児童31人にお届け講座



熱心に話しに聞き入る児童＝宮崎北部

【宮崎北部森林官署】椎葉村立尾向小学校全校児童31人を対象に「お届け講座」を行いました。はじめに児童らは体育館で鳥やドングリの話を聞きました。その後、低学年と高学年に分かれて受講しました。低学年はおじいちゃんやおばあちゃん、中国の友達などにあて、木製ハガキに手紙を書きました。また、植物のタネがどんな方法で子孫を残していくかについて、タネの模型を使って学習しました。高学年は、校庭にある樹木の名前と特徴、昆虫について学習しました。今回は、樹木の名前をしっかりと覚えてもらえるよう、森林官が準備した板に児童らに樹名を書いてもらう方法としま

した。中には、普段から校内に設置してある樹名板で樹名をしっかり身に付けている児童もいました。緑に囲まれた尾向小学校で熱心に取り組む子供たちと楽しくふれあうことが出来た講座となりました。

低コスト作業システムを検討

【佐賀森林管理署】伊万里農林事務所と伊万里西松浦森林組

合が「伊万里西松浦林業再生プロジェクト・技術検討会」を開き、講師として当署と（株）西部林業が出席しました。当署からは作業路網開設の進め方、国有林での利用間伐実績・概要、採材・販売方法などについて説明を行いました。その後国有林の現場へ移動し、（株）西部林業の川名事業部長による高性能林業機械を活用した効率的な作

業システムと列状間伐の説明がありました。参加者からは、グラスコンパスを用いた間伐列の設定方法に関心が集まり「機械的な作業ではあるものの迷いもなく時間が短縮できる」など多くの意見が寄せられました。これからも、民有林と国有林との交流を図り、効率的な作業システム化へ向け取り組んで行くことの大切さを実感しました。



現場で検討する参加の皆さん＝佐賀



井上 司 さん

国有林モニターになり2年目です。

モニターに応募するきっかけは、妻が市の広報誌を見て二人で申し込んでみようかと誘われ応募しました。私はどんな事をするのか心配でしたが妻の「やってみないとわからない、頑張ってみよう」の言葉に乗せられて現在に至っています。

昨年夏の8月2日、熊本で行われた国有林モニター会議に初

めて参加させて頂きました。九州森林管理局のスタッフの皆さんが先生となり国有林全般についての学習後、実際に森林に行き間伐のやり方、伐採の道の作りなどを見学する事が出来ました。昔と違い重機の投入により効率化が進み明るい森林づくりの見える思いがしました。

今年の3月1日は、宮崎県の一ツ葉海岸で行われた植樹祭とモニタープロック会議に参加しました。午前

中は企業やボランティア、ポイスカウトなど約200人で防風林として松の苗千本の植樹を

行い気持ちの良い汗を流しました。皆満足そうな顔をみると自然の中で体を動かす楽しさを改めて実感しました。午後からは保

護林の冊子の全面刷新について二班に分かれ意見交換がありました。参加者の森林に対する知識の深さに感心させられ、勉強不足を痛感しました。

私の住む都城は近くに霧島連山、綾の照葉樹林があります。山歩きが好きな私は心身のリフレッシュを求め、年に数回登っています。春には新緑、秋には紅葉と楽しませてくれます。い

つ登ってもその日その日によって山が違って見えて飽きることはありません。山に登る途中に枯木が多いのが気になります。それ以上に荒れ放題の山も多く山が可哀相と思うのは私だけでしょうか。

なく未就職者の人達にも大自然で働く喜びを体験させ未来志向の仕事として、PRし林業就労者を一人でも多く確保すべきと思います。

（宮崎県都城市在住）

国有林モニター2年目

ていませがなかなか就職出来ません。森林に関心がある人ばかりで

（宮崎県都城市在住）

「国民が支える森林づくり運動」 還元方法など基本的仕組み決定

7月28日、九州森林管理局大会議室において、各県、製紙会社、紙の流通会社などの出席の下、「国民が支える森林づくり運動」推進協議会総会（会長：九州森林管理局長）を開きました。

この運動は、間伐材を使用した紙製品を積極的に利用することにより、国全体で進めている間伐を推進し、地球温暖化防止対策に貢献しようというもので、今年で5年目になります。

はじめに、津元頼光九州森林管理局長が「4月より間伐材入り紙製品である木になる紙シリーズ」



協議会の冒頭であいさつする津元局長

ズにコピー用紙が加わったところであり、今後はいかに普及を進めていくかが課題である」とあいさつ。

その後協議会では、木になる紙コピー用紙1キあたり5円のお金を流通会社が拠出し、そのお金を森林組合などを經由して森林所有者に還元していくという新しい仕組みが決定されました。これにより、木になる紙コピー用紙に利用された間伐証明書付丸太1立方尺につき、1000円が丸太価格と別に森林所有者に支払われることとなり、森林所有者の間伐推進意欲の向上につながることを期待されます。

また、間伐証明書付チップの絶乾重量1キあたり2円を上乗せして製紙会社を買取ることについても了承されました。

今回の協議会では、最大の懸案であった森林所有者への還元方法など、基本となる仕組みが決定。これにより、普及促進活動に本格的に取り組めるようになることから、今年の8月、9月と乗年の1月、2月を「間伐

紙普及促進重点月間」とすることも決まりました。

今後は、「国民が支える森林づくり運動」推進協議会メンバー等が一丸となって間伐紙の普及を進めることとしています。
(担当＝企画調整室)

鹿児島森林管理署 鹿児島大学生が治山工事現場見学

【鹿児島森林管理署】鹿児島大学生物環境学科の学生ら27人が、桜島民有林直轄治山事業の現地を見学しました。はじめに、桜島東部の湯之平展望所において山部哲経署長が桜島民有林直轄治山事業を説明。その後、引の平沢の現場へ移動した学生らは、岩盤がむき出しになった桜島治山の現場を目のあたりにし、「こんなに迫力があるとは思わなかった。治山ダムがこんなに



湯之平展望所で説明を聞く学生＝鹿児島

大きいものとは思わなかった」などの声が聞かれ、当署が進めている治山事業のPRにも一役買いました。



現地で検討する参加者＝熊本南部

低コスト現地検討会に60人

【熊本南部森林管理署】芦北森林事務所管内の国見国有林において職員や関係者約60人が参加し、低コスト路網の現地検討会を実施。今回は将来を見据え、林道や作業道・作業路の一体的な取り扱いが出来る者の養成を念頭に土木事業に従事しているオペレーター10人も参加しました。事業体により技術に差があることを踏まえ、泉林業のオペレーターに丸太組の作設方法の実演を実施。また、水の逃がし方、カーブの線形の取り方など

の現地検討も行いました。今後、さらなる技術アップに努めていくことを確認し終了しました。

労働災害防止大会を開催

【佐賀森林管理署】佐賀県立男女共同参画センター・生涯学習センター「アバンセ」で県内の林材業事業所従業員や佐賀県市や町、当署などの行政関係者ら244人が参加し、林業・木材産業に従事する労働者の労働災害の撲滅、労働者の安全と健康を確保するため「林材業労働災害防止大会」が開かれました。県内では本年既に2件の死亡災害が発生するなど憂慮すべき状況。本大会は、林材業の労働災害の撲滅に向け決意を新たにするとともに、安全意識の向上と労働災害防止活動の一層の強化が図れた大会となりました。



労働災害撲滅に向け決意新たに＝佐賀

人のうごき

8月1日付林野庁長官発令
林野庁経営企画課環境保護調整
係長

佐野周二(大分西部署)

林野庁職員・厚生課

森永俊一(鹿児島署)

8月1日付森林管理局長発令

大分西部署総務係長

鈴木 誠(大分西部署)

屋久島署経理係長

江邑駿介(林野庁)

大分西部署森林官

田中善成(屋久島署)

宮崎署森林官

齊藤政子(企画調整室)

宮崎署都城支署森林官

東度考太(計画課)

宮崎南部署森林官

古川祐美(佐賀署)

鹿児島署森林官

岩下晃之(屋久島署)

計画課係員

藤田敬一郎(熊本南部署)

農林水産省出向

児玉秀一(宮崎署都城支署)

保育間伐など体験

【大分森林管理署】分収造林
契約者の要請を受け、由布市の

の消失が以前より進行している
ように思えました。

ウイルソン株周辺をはじめと
する屋久島の森林では、江戸時
代以前から屋久杉の伐採(利用)
が行われてきましたが、平成12
年度をもってその伐採を中止し



屋久島の世界遺産関係の業務
で11年ぶりに縄文杉まで登る機
会を得ました。縄文杉は以前と
同じく威風堂々とした姿で迎え
てくれましたが、実は自
分としてはウイルソン株
背後の天然スギが林立す
る景観がお気に入りのス
ポットです。また、平日にも関
わらず世界遺産イコール縄文杉
と言わんばかりに多くの登山客
が訪れていました。年々増加す
る登山客の踏圧などにより、歩
道周辺の根元の洗掘や下層植生

屋久島の森林

ています。一方、現在では縄文
杉登山ルート周辺をはじめとす
る屋久島の森林の観光資源とし
ての利用が進んでいるところで
す。今後、私たちは屋久島町な
どと協力し学識経験者の助言も

れ、管理署、センターの職員の
皆さんのおかげで所期の目的を
達成することができました。こ
の場を借りて改めてお礼を申し
上げる次第です。
(計画課長 岡村和哉)



間伐木に鋸を入れる参加者=大分

立石国有林で112人参加の下
保育間伐や間伐材を利用した歩
道階段の作設を指導しました。

頂きながら、屋久島の森林の保
全と利用の両立を適切に図って
いく必要があると考えます。併
せて、遺産地域を含む屋久島の
森林は島の方々の暮らしや営み
を通して、その生態系が保全さ
れていることについても、正し

く国民の皆さんに伝
えることが重要と考
えます。
当日は天候に恵ま

始めて経験する人も多く、間伐
木が倒れる様子に歓声の音が上
がっていました。また、造林地
に生育している植物観察も実施
職員の見分け方などの説明に、
参加者は耳を傾けていました。

高校生ら下刈り作業に汗

【宮崎北部森林管理署】日向
市の「お倉ヶ浜ふれあいの森」
で、日向市ふるさと自然を守る
会と協働で「美しい森林づく
り『門川高校生による下刈り』」
を行いました。当該地は今年2
月に、門川高校生をはじめ一般
市民など300人参加の下、ウ
バメガシなどの広葉樹1100
本を植樹した箇所。当日は門川
高校フォレスト系列科2年生の
生徒や先生ら約40人が参加。当
署職員や日向市のふるさとの自



作業に汗する学生=宮崎北部

然を守る会会員の指導を受けな
がら、造林地に生えたセイタカ
アワダチソウなどの刈払いやつ
るの除去に汗を流しました。そ
の後、同自然を守る会の大野裕
氏から海岸林内の植物について
の講義があり、生徒たちは熱心
に耳を傾けていました。



施業方法など検討する参加者=大分西部

FM林化推進に向け検討

【大分西部森林管理署】FM
林化の推進に向け現地検討会を
開きました。管内を巡りながら、
人工林の取り扱いについて施業
方法の選択などを検討。参加し
た職員からは将来の森林の取り
扱いも含めた意見が出されるな
ど、有意義な検討会になりました。
今後、署と現場、現場間で
の連携協力を図りながら効率的
に業務を進めていくことを確認
して閉会しました。

実践講座 第1回・公開講座

ルーペを使い 葉の仕組みを熱心に観察

森林の働きや大切さを理解していただくとうと6月28日、第1回実践・公開講座「葉の構造を学ぶ」を熊本城の一角にある監物台樹木園で開き、45人の方が参加されました。

はじめに、同樹木園内の「緑の交流館」において、九州森林インストラクター会の安樂行雄会長が、樹木の分類や用語の解説、樹木ごとの葉の形や付き方の特徴、葉脈や鋸歯など葉の基本的な構造を説明。参加者の皆さんは熱心にメモをとられていました。



葉の仕組みを観察する参加者ら

その後参加者は、屋外に場所

を移し、園内にある樹木の葉をルーペを使い葉の仕組みを熱心に観察されていました。

参加者からは「自分が育てている植物により興味が湧いた。とてもためになった。次回もぜひ参加させてほしい」などの感想が寄せられ、第1回実践・公

開講座を終えました。

(担当＝指導普及課)

児童ら森林の役割など学ぶ

【熊本森林管理署】山都町

立清和小学校5年生15人を対象に森林教室を実施。はじめに、職員手づくりのポスターや紙芝居を用い「森林と海の関係」や「森林の役割」を説明。その後、ミスマメのにおいを嗅いだり、キハダの枝をなめるなど森林を五感で体感しました。この模様は、



本州、四国、九州(鹿児島県、

宮崎県、沖縄は分布なし)に分布しており樹高10m程度までになる落葉広葉樹で紅葉の綺麗なカエデです。カエデ科で三出葉があるのはメグスリノキとミツデカエデだけです。メグスリノキは若枝、葉裏に灰白色の毛が密生していることで判別できます。

熊本県菊池溪谷の広河原下流の遊歩道ではメグスリノキの大本とミツデカエデが並んでおり比較検討ができます(樹名板あり)。名前は樹皮や小枝の煎じ汁が眼の病気に効くとして民間

②4メグスリノキ(カエデ科)

葉に利用されたことからと云われています。日本特有の樹木で漢方では利用されていません。

果実はカエデ科で一番大きく森のイントラクションには欠かせません。「カエデ科の種子はプロペラのように回る」と解説されており、このことを鎌状の2個の種子(分果)が同時に飛ぶと大部分の方が解釈されています。2個の種子がプロペラのように回るのではなく、1個の種子の核の部分がおもりになって羽の部分がるくる回るのです。このことを実演するとびっくりされ好評です。

監物台樹木園の最深部の東側

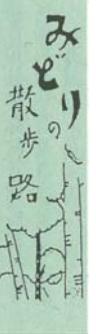


キハダを口に苦笑いの児童＝熊本

町の広報誌や地元新聞に掲載され、開かれた国有林を幅広い国民へ発信できました。



に胸高直径約10cm、高さ5mのメグスリノキがあります。



ようやく、九州北部の梅雨が明けた。観測史上、最も遅いらしい。長引く雨により冷夏。農業被害やプランクトン大量発生による赤潮で漁業被害も発生。これも異常気象によるものか。気象条件に左右される第一次産業の辛いところである▼7月末には、梅雨前線が最後の悪あがきでもするように、中国地方や九州北部にとんでもない豪雨をもたらした。今回の被害では、ハード対策に加えソフト対策の重要性を十分思い知らされた気がする▼近年の豪雨による被害は、局所的かつ甚大。地球温暖化の影響とも言われている。今、九州国有林では、間伐を主体とする森林整備を強力に推進するとともに、間伐材需要の観点からは、地球温暖化対策貢献商品として九州間伐紙「木になる紙」(コピー用紙)の普及に取り組んでいる▼8月と9月は、「間伐紙普及促進重点月間」。本誌読者の皆さんにも、紙1枚からの地球温暖化防止にご協力いただきたい▼梅雨明けに合わせたように朝から蝉が一斉に鳴き出し、まさに盛夏の感。いろんな意味で暑い夏の始まりである。(義)